

犬山城(白帝城)(国宝, 百名城)(犬山市大字犬山字北古券)

犬山城(いぬやまじょう)は、愛知県 犬山市にあった城である。現在は天守のみが現存し、江戸時代までに建造された「現存天守 12 城」のひとつである。また天守が国宝指定された 4 城のうちのひとつである(他は姫路城、松本城、彦根城)。

木曾川沿いの高さ約 88 メートルほどの丘に築かれた平山城である。別名、白帝城は木曾川沿いの丘上にある城の佇まいを長江流域の丘上にある白帝城を詠った李白の詩「早發白帝城」(早に白帝城を発す)にちなんで荻生徂徠が命名したと伝えられる。

前身となる砦を織田信長の叔父である信康が改修して築いたものを石川貞清(光吉)が改修し現在のような形となった。この際の建築用材は金山城の建物の一切を解体移築したという「金山越」の伝承がある。江戸時代には尾張藩の付家老が入城し、成瀬正成以来、成瀬氏 9 代が明治まで城主として居城とした。現存する天守が建てられた年代については天文期説、慶長期説などがあるが、現在のような姿となったのは成瀬正成が改修した 1617 年(元和 3 年)ごろである。2004 年まで、城主であった成瀬家が個人所有する文化財であったが、現在は財団法人に譲渡されている。

戦国・安土桃山時代

- 1469 年(文明元年) 織田広近がこの地に砦を築いたのが始まりといわれる。
- 1537 年(天文 6 年) 織田信康は居城の木ノ下城を廃し、現在の位置に城郭(乾山の砦)を造営して移った。現存する天守の 2 階まではこのころ造られたと考えられている。
- 1544 年(天文 13 年) 信康が斎藤道三との戦いで戦死して子の信清が城主となる
- 1564 年(永禄 7 年) 織田信長との対立の末に信長によって攻め取られる。
- 以後、池田恒興や織田勝長などが城主を務めた。
- 本能寺の変後、織田信雄の配下の中川定成が城主となる。
- 1584 年(天正 12 年) かつての犬山城主・池田恒興が突如、奇襲をかけ、信雄方から奪取する。これはまもなく小牧・長久手の戦いの引き金の 1 つとなる。戦後は再び織田信雄の城となるが、彼の失脚後は三好吉房などが城主を務める。
- 豊臣時代には石川貞清が城主となった。かつては、この時に美濃国金山城の天守を移築したという伝承があったが、1961 年(昭和 36 年)の解体修理の際の調査の結果、移築の痕跡がまったく発見されなかったため、移築説は現在は否定されている。

江戸時代

- 石川貞清は関ヶ原の戦いでは西軍に属したため、まもなく没落した。
- 1601 年(慶長 6 年) 小笠原吉次が城主となる。
- 1607 年(慶長 12 年) 平岩親吉が城主となる。
- 1617 年(元和 3 年) 親吉没後 6 年間親吉甥の吉範が城主を務めたのち、尾張藩付家老の成瀬正成が城主になり、天守に唐破風出窓が増築される。以後江戸時代を通じて成瀬家 9 代の居城となった。

犬山城の天守は外観 3 重、内部は 4 階、地下に踊場を含む 2 階が付く。天守南面と西面に平屋の付櫓が付属する複合式で、入母屋 2 重 2 階の建物の上に 3 間×4 間の望楼部を載せた望楼型天守である。地階 1・2 階出入口を含めて、総延面積は 698.775 平方メートルに達する。天守台石垣は野面積みという積み方で、高さは 5 メートルある。天守の高さは 19 メートルある。

現存する天守は、1935 年(昭和 10 年)に国宝保存法に基づき当時の国宝(旧国宝)に指定、1952 年(昭和 27 年)には文化財保護法に基づき、あらためて国宝に指定されている。

廃藩置県の際に払い下げられた建造物として、矢来門が専修院東門に、黒門が徳林寺、松ノ丸門が浄蓮寺、内田門と伝わる城門が瑞泉寺にそれぞれ移築され現存する。また、どこの門かは不明であるが、旧城門と伝わる門が運善寺他に移築現存する。

Wikipedia による

